



鎮守の森だより

NPO 法人 社叢学会ニュース

第 22 号

2006 年 7 月 11 日

平成 18 年度総会

九州地区で定例研究会を開催

福岡県支部設立

平成 18 年度総会・研究大会並びに記念シンポジウムは、去る 5 月 27 日(土)に福岡県太宰府市の太宰府天満宮余香殿ホールを会場に開催され、会員による研究発表や記念シンポジウムには会員のほかに一般市民も多数参加しました。

この日、午前 10 時に開会した総会は、上田正昭理事長(京都大学名誉教授)より九州地区における研究会活動の拠点となる福岡県支部設立を告げる挨拶の後、今総会の実行委員長に就任していただいた西高辻信良太宰府天満宮宮司が社叢の社会的意義等にもふれながら挨拶された。この後、議長に林進副理事長(岐阜大学名誉教授)が選任され、正会員総数 308 名中、168 名(委任状含む)の出席者により、5 項目からなる議案を審議し、全ての議案が承認されました(次ページ参照)。なお、次年度の総会は京都での開催を予定しております。

総会に続いて行われた会員による研究発表は、1 テーマごとに 20 分間発表し、10 分間の質疑を行なう形式で、次の 3 氏が発表しました。椎原晩聲氏「2000 年の森」を目指して～加紫久利神社の社叢とその設計理念～」、岡村穰・長谷川泰洋

氏「社寺林が都市の快適性に及ぼす影響～名古屋市千種区城山風致地区の事例～」、森弘子氏「『竈門山水帳』にみる江戸期宝満山の社叢」の 3 テーマでした。

午後からのシンポジウムは、国際日本文化研究センター名誉教授で宗教学者の山折哲雄氏が「鎮守の森の伝統と課題～続・鎮守の森は泣いている～」と題して基調講演された。パネルディスカッションでは、岡村穰理事(名古屋市立大学教授)がコーディネーターをつとめ、パネリストとして今回新たに当学会理事に選任された矢幡久九州大学教授、同じく飯沼賢司別府大学教授、上田昌弘氏(鎮守の森の会主宰)、糸谷正俊理事が登壇し、それぞれの専門分野の立場から発表の後、会場の参加者からの質問も採り入れ、活発な自由討議が交わされ、内容の充実したシンポジウムとなりました。

なお、福岡県支部につきましては、事務局を太宰府天満宮社務所内に設け、支部長に矢幡久教授が、顧問に西高辻信良宮司が就任されます。活動は今夏に第 1 回の研究会を、晩秋に 2 回目の研究会を予定しています。

第1号議案

平成17年度事業報告書
(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

事業名	事業内容	実施日時	実施場所
通常総会	記念講演・シンポジウム・研究発表会	平成17年6月4日	真清田神社参集殿
臨時総会	役員改選の件・定款変更の件	平成18年3月25日	伏見稲荷大社儀式殿
理事会(3回)	平成17年度総会・役員変更並びに愛知博	平成17年6月4日	真清田神社参集殿
	平成18年度総会・役員改選と臨時総会	平成17年10月11日	社叢学会事務局
	平成18年度総会・社叢インストラクター資格	平成18年1月28日	ビル葆光
関西定例研究会			
第16回	古代の社叢・寺林・墓林	平成17年7月23日	ウイングス京都
第17回	照葉樹林の語源と照葉樹林の種多様性	平成17年9月24日	ビル葆光
第18回	歴史的な緑の現状と保全活用のあり方	平成17年11月26日	伏見稲荷大社儀式殿
第19回	鎮守の森の歴史と現在	平成18年1月28日	ビル葆光
第20回	伝統文化の見直し～繋がれた世界～	平成18年3月25日	伏見稲荷大社儀式殿
関東定例研究会			
第15回	三鷹市の社叢分布と樹種構成	平成17年4月23日	國學院大學
第16回	社叢の風致と風致地区のまちづくり	平成17年7月23日	大宮八幡宮
第17回	千葉県の社叢について	平成17年10月29日	國學院大學
第18回	諏訪大社の祭りに関わる木	平成17年12月17日	〃
第19回	住民の生活と河川環境にかかわる	平成18年2月25日	〃
中部定例研究会			
第5回	美濃の国府と一宮 他	平成17年5月7日	伊奈波神社参集殿
第6回	諏訪大社の社叢と御柱祭	平成17年7月23日	諏訪神社下社秋宮参集殿
第7回	多賀大社の社叢について	平成17年10月8日	多賀大社参集殿
第8回	小國神社の社叢について	平成18年3月11日	小國神社
緑地資源の調査	沖縄県における御嶽等歴史的緑地の 保全・活用に関する基礎的調査	平成17年4月～7月	沖縄県
会員証発行	全会員約640名分	平成17年6月	会員へ郵送
会報発行(6回)	「鎮守の森だより」(A4判・4ページ)	平成17年5月 から隔月	会員へ郵送
会誌発行	『社叢学研究』(A4判・80ページ)	平成18年3月	会員へ郵送
社叢セミナー	社叢インストラクター養成講座(第2回)	平成17年7月9日 ～11日	檀原神宮・春日大社ほか
'05愛・地球博	千年の森・天空鎮守の森など出展	平成17年3月～9月	愛知万博会場
ホームページ	会員並びに一般市民に対するPR	平成17年4月～ 18年3月	インターネット

第2号議案

平成17年度事業会計収支決算
(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額		科 目	金 額	
収入の部			支出の部		
1 会費収入			1 事業費		
正会員会費	1,260,000		社叢調査活動費	525,000	
市民会員会費	435,000		社叢セミナー費	198,700	
賛助会員会費	1,050,000		定例研究会費	461,322	
協力会員会費	400,000	3,145,000	総会関係費	173,420	
2 事業収入			会誌「社叢学研究」 関係費	755,430	
社叢調査受託金	735,000		会報「鎮守の森だより」 関係費	378,749	
セミナー受講料	250,000		会員証作成費	24,590	
研究会資料代	1,500		愛・地球博 関係諸費	1,715,397	4,232,608
総会資料代	4,500		2 管理費		
社叢学研究販売	10,000		雑給	960,000	
愛知博事務費	1,200,000		旅費交通費	154,080	
書籍販売	20,400	2,221,400	通信費	208,037	
3 寄付金収入			地代家賃	1,058,000	
賛助金	500,000	500,000	租税公課	1	
4 雑収入			事務用品費	166,991	
助成金	1,000,000		支払手数料	101,494	
受取利息	10	1,000,010	水道光熱費	23,771	
			理事会関係費	28,670	
					2,701,044
当期収入合計(A)		6,866,410	当期支出合計(B)		6,933,652
当期収支差額(A) - (B)					-67,242
前期繰越支出差額					2,319,736
次期繰越収支差額					2,252,494

小國神社の社叢について

講師

内田 文博(小國神社宮司)

講師

正木 伸之(樹木医・正木樹芸研究所)

コメンテーター

林 進(岐阜大学名誉教授・社叢学会副理事長)

新緑の頃の雨上がりの朝の至福のひと時

小國神社は静岡県周智郡森町にあり、遠江国一宮として、南アルプス赤石山脈の最南端で遠州平野の最奥部にあり、北方6kmに本宮山があり神体山とし、大国主命を祭神としている。三河国一宮の砥鹿神社の状況と良く似ており、徳川家康の信仰も厚く、かつては神職の行き来があった。明治19年に再建された本殿は、当時の出雲大社の図面を借りて、間口を半分位に縮めた総檜の大社造である。その檜皮葺屋根は有名で、丹波の職人が6~7ヶ月かけて葺く。地元の檜皮を使うことで地産地消にもなり、耐久性も向上する。

小國神社の境内のほとんどが山林で、先々代の宮司が命名した「古代の森」と呼ぶ鬱蒼とした森がある。木々の間に四季折々の花を植えており、1月の山茶花から始まり、紅梅・白梅、河津桜・寒緋桜・ソメイヨシノ・シダレザクラ、ミヤマツツジの群生、シャガの群生、シャクナゲ、花菖蒲園、紫陽花、菊花展、宮川沿い1.6kmの紅葉など、人手を入れてこのような社叢を作ってきた。5・6月の宮川沿いの新緑の頃、特に雨上がりの朝の午前5時頃が素晴らしく、所謂「マイナスイオン」を感じる至福のひと時である。自然の中に身を置いて参拝していただければ有難いと代々の宮司は願っている。

国学者「小国重年」が始めた森づくり

小國神社の社叢は、植林で構成された全国でも稀有な事例である。200年前に国学者であった小国重年が宮司を務めて、1800年代から19年かけて境内に杉苗を植えた。当時の「宮山杉苗植付帳」には、97,215本植えたと記されており、以来、毎年4月の杉祭り神事として杉苗を植えている。

小国重年は森の重要性を説いた唯一の江戸国学者であった。また、攘夷運動にも影響を与えて「遠州報国隊」の結成に対し、木を売って財政的援助を行ったと言われている。終戦直後の混乱期には、小国重年が植えた杉が150年経ち、その売却益で神社を守ることができた。

参道が杉の落ち葉でまっ茶色に

小國神社は入り口の太鼓橋から400mほど参道

が続く。平成14年に「宮が明るくなった」と言われた。沢山の杉の葉が落ちて、参道がまっ茶色になって、枯れ枝の落下も多かった。嵐の後の清掃に、職員総出で約1時間半を要した。

正月に20万人強の参拝者があり、森町の統計によれば、森町の年間観光客約100万人のうち、約72万人が小國神社に参拝に来ると言われている。その多くは、浜松市からである。多くの人が参道を踏みつけると巨木を傷めるという状況になってきた。次の講演者である樹木医の正木伸之さんに相談して、年1回参道に空気を注入して水が通りやすくしたことで、茶色の枯葉が少なくなった。

落枝は危ない。不思議なことに台風で風が吹いている時は枝が落ちないで、夜中に風が静まった後にポキッと折れる。また、人の多い日中に落ちてきたという話も聞かない。神の力を感じることもある。

どうしてこんなに明るくなってしまったのか？

踏み固め過ぎで、根が傷んでいる。調べたらダンプが走っても轍がでない、枝下ろしの際に20tクレーンを入れても全く地面が凹まなかった。表層から10cm位の深さまで、土がカチカチに固まっていた。その原因として、参道に敷いた細かい砂利が、母材の赤土と交じり合って固くなったと考えられる。透水性も極端に悪くなっており、土中の根も腐って死んでいた。この地は木の生育は良いのに参道の土が悪い。今まで良く育っていたのに、近年になってどうして固くなったのか不思議である。地形から考察すると、山から来る地下水は、西から流れて南北に延びる参道の下を流れて東の宮川へ落ちている。参道の西側にある池の堰堤は、丸石の野面積みであるが、水が抜けている形跡がない。

改良方法としては、参道を橋で覆って参拝者が直接土を踏まないようにするのが良いが、それでは風情がない。結局、コンプレッサーを使って圧搾空気を地中に送って土を柔らかくする方法を採用した。今年は4年目になるが、5年が経過した所で、施工前と比較する予定である。

(文責：岡村 穰)

次回予告(第9回中部定例研究会)

日 時： 2006年8月19日(土) 13:30~15:30

場 所： 秋葉神社上社斎館(浜松市春野町領家841 053(985)0111)

テーマ・講師： 秋葉山本宮秋葉神社の社叢について 河村基夫(秋葉神社宮司)他

コメンテーター： 林 進(岐阜大学名誉教授)

第2回社叢インストラクター(第 期)養成講座

9月16日～9月19日

日程

第1日 2006年9月16日(土) 大阪市平野区平野宮町 杭全神社

午前9時30分 開講式

講義 「市街地の鎮守の森を守るために」 講師/藤江正謹(杭全神社宮司)

講義 「都市域における神社の緑の実態と継承のあり方について」

講師/上園木昭春(社叢学会理事・大阪府立大学教授)

講義 「社叢の保全と課題」 講師/糸谷正俊(社叢学会理事・総合計画機構)

実習 「市街地の社叢と景観」 講師/糸谷正俊(同上)

講師/菅沼孝之(社叢学会副理事長・元奈良女子大学教授)

第2日 2006年9月17日(日) 午前9時集合バス利用

視察の目標 「カシ林を社叢とする鎮守の森の環境と管理」 講師/菅沼孝之(前出)

天神社社叢(奈良市中之庄町)・石上神宮(奈良県天理市布留町)

葛木坐火雷神社(笛吹神社 奈良県葛城市)・村屋坐弥富都比売神社(奈良県田原本町)

第3日 2006年9月18日(月・祝) 午前9時

京都府山城町(JR 棚倉駅前) 和伎座天乃天岐売神社(湧出宮)

講義 「湧出宮の森の近代史」

講師/仲谷勝彦(湧出宮宮司)

講義 「イチイガシ林を社叢とする鎮守の森の環境と管理」

講師/菅沼孝之(前出)

実習 「森林の階層構造を調べる」

講師/ 同上

第4日 2006年9月19日(火) 午前9時

京都市左京区下鴨泉川町 賀茂御祖神社(下鴨神社)

講義 「鎮守の森の動物」と実習 講師/渡辺弘之(社叢学会理事・京都大学名誉教授)

講義 「鎮守の森の伝統と課題」 講師/上田正昭(社叢学会理事長・京都大学名誉教授)

修了式 終了証書授与

受講資格 第2回社叢インストラクター養成講座(第 期)を受講された方。なお、第1回のセミナーを受けられた方は、4日間のうち、1日でも受講できます。

受講料 30,000円(4日間の昼食代含む)。第1回セミナー受講生は1日8,000円(昼食代含む)。

次回予告(第21回関西定例研究会)

日時: 2006年7月22日(土) 13:30～15:30

場所: ビル葆光6階大道の間(京都市中京区室町通御池南下ル 075-211-4171)

テーマ: 神輿塚の話 ～近江甲賀の事例から～

講師: 米田 實(滋賀県甲賀市市史編纂係長)

コメンター: 井上 満郎(京都産業大学教授・社叢学会理事)

bookbookbookbookbookbookbookbookbookbook
書籍紹介
bookbookbookbookbookbookbookbookbookbook

『歴史に学ぶ』
古代から現代へ

上田正昭・著

著者は当学会理事長。本書は、古代史を中心とする論文やエッセイを収めた第 1 部と『京都新聞』のコラム欄「天眼」に執筆した 100 篇の随筆を収めた第 2 部から構成されている。第 1 部は、「神々とまつり」「史脈躍動」の 2 章から成り、「神々とまつり」の章では日本のまつり・古代のまつりと地名・鎮守の森の再発見・森林と文明・神も仏も・寄り来る霊木・神々と夕暮れ・雅楽と日本文化などについて論述している。鎮守の森の再発見の項では「自然との共生が問われているいまの時代にあって、カミとヒト、自然と人間のまじわりの接点として生きつづけてきた鎮守の森の過去・現在とそして未来には、これからの人類の進むべき大きな命題のひとつが秘められている。」と鎮守の森の保存と再生をはかるとを力説している。

「史脈躍動」の章には武寧王と日韓関係・荒陵寺と難波吉士・気多大社と寺家遺跡など古代史を中心とした論文 7 篇を収録。第 2 部は 100 篇の随筆をテーマと内容にしたがって、「史眼照顧」「アジアの世紀」「うちとそと」の 3 章仕立てとなっている。

歴史とその周辺を解りやすく語る本書は、古代史から日本文化を解き明かし、現代を見つめ未来を展望する珠玉のエッセイ集でもある。
学生社・定価 2,400 円(税別)

事務局から

平成 18 年度の会費を納めていただいた方(平成 18 年 6 月末日現在)には、今年度の会員証を同封致しました。会費未納の方は、学会活動を円滑に運営するためにも、ご協力よろしくお願い致します。なお、ご住所(E-Mail アドレス)を移転された方はお手数ですがご一報下さい。

編集後記

日本でボールを蹴るっっちゃ蹴鞠でしょうが。みんな輪になってさ、掛け声掛け合ってさ、あんな、人様に体当たりしたり、押しのけたり、そういうの性に合わないんだよ。でも、一回ぐらい勝ってほしかったよなあ。

ベッカムさまも、カカくんもかっこよかったよ。でも、なんといってもゲルマン魂ベンチウオーマー・カーンさまでしょ。アルゼンチンとの PK 選の前にレーマンを励ますお姿のなんと素敵だったことか！ バーベキューで食あたり(食べ過ぎ?)するところもカワイイしさ！

(藤岡 郁)

原稿募集！

『社叢学研究』(第 5 号)への投稿：従来どおり論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各 400 字詰原稿用紙 40 枚以内)のほかに、会員通信「鎮守の森の活動報告」を募集します(下記参照)。今年度の投稿締切りは、いずれも 11 月 30 日(木)必着。

「鎮守の森の活動報告」：祭り、音楽会、問題点など。B5 判 1200 字。横書き。手書き、ワープロ、イラスト、写真入り、いずれも可。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区蛸薬師通堺町西入雁金町 373 番地
みよいビル 303 号 TEL075-212-2973 FAX 075-212-2916
URL <http://www2.odn.ne.jp/shasou/> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
社叢学会関東支部 〒101-0031 千代田区東神田 1-8-11 森波ビル 2F
TEL03-5875-8423 FAX 03-5875-8321 E-Mail shasou@macrovision.co.jp